

## 教育長定例記者会見 会見録

日時：令和7年6月24日（火）16時00分～

場所：教育委員室

### 発表項目

- ・ 大学等への進学を考えている高校生を対象とした企業展「みえ未来探究フェア2025」を開催します
- ・ 「平和を探究し、創造する高校生育成事業」を実施します
- ・ 高校生がグローバルな視野を育む「国際フェア」を開催します
- ・ ICTを効果的に活用して新しい学びを実現する授業を公開します

### 質疑事項

- ・ 大学等への進学を考えている高校生を対象とした企業展「みえ未来探究フェア2025」を開催します
- ・ 「平和を探究し、創造する高校生育成事業」を実施します
- ・ 高校生がグローバルな視野を育む「国際フェア」を開催します
- ・ ICTを効果的に活用して新しい学びを実現する授業を公開します
- ・ 公立学校の体育館における空調設備の設置状況について
- ・ 教員採用選考試験について

### 発表項目

○大学等への進学を考えている高校生を対象とした企業展「みえ未来探究フェア2025」を開催します

県教育委員会ではこのたび新規事業として、大学等への進学を考えている高校生を対象とした企業展「みえ未来探究フェア2025」を、県立高校3校で開催します。最初に申し添えますと、この事業は教育委員会では数少ない、人口減少対策に該当する取組です。本年度の重点事業の1つです。配付資料の1のところに、事業の趣旨を記しています。県立高校卒業生の約5割が大学、短大へ進学し、うち約7割が県外大学に進学していますけれども、そのUターン就職率は約3割にとどまっているということです。そしてこのUターンの希望率というのは、高校時代に地元企業を知る機会の多さと相関関係にあるという調査結果もありまして、高校時代に地元企業を知る機会を作り出していくことの必要性が今言われています。そこで、今回、進学希望の高校生に向けて、県内企業で活躍する職業人から話を伺う機会や企業への訪問など、企業と連携した探究活動に取り組もうとする事業でございます。今日発表します企業展は、この取組の1つでありまして、配付資料の2のところにありますように、県の北部、中部、南部に位置する県立高校3校で実施します。株式会社マイ

ナビへ業務委託しておりまして、参加企業は、このマイナビが提供する高校生のための学習プログラムに登録している県内企業、約 140 社が中心となります。各企業ブースでは、事業の説明や体験型の技術紹介が行われます。大体、企業紹介 5 分、体験 10 分という感じです。体験の内容は各参加企業が企画しますので、現時点では未定ですが、例えば、金属関係の企業ならスプーンづくり体験、食品企業なら食品品質検査体験、Web 企業ならアプリ製作体験というような内容になるのではと想定しています。企業展の日程は、宇治山田高校と桑名西高校が 7 月の開催、相可高校が 10 月の開催です。このうち、宇治山田高校は、講義、ワークショップが中心の内容となります。それから桑名西高校は学校内ではなく四日市の地場産業振興センターでの開催です。参加するのは、どの学校も 1 年生の生徒となります。ぜひ取材いただければと思います。

### ○「平和を探究し、創造する高校生育成事業」を実施します

本年は戦後 80 年という節目の年でございます。高校生が平和の実現に向けて主体的に行動しようとする態度を養うことを目的に、「平和を探究し、創造する高校生育成事業」を実施します。実はこの事業も、本年度の重点事業の 1 つです。配付資料の 1 のところで、この事業の特徴がわかっていただけたと思いますが、1 行目にありますように、県内の高校生が集い、大学教授の講義を受けて、世界各地の戦争や紛争の実態を学ぶというだけにとどまらず、2 行目にあるように、紛争地の若者も交えて、生徒同士で話し合い、紛争の解決と平和実現への手立てを考えるというところを大きなねらいとしています。8 月中に 3 回開催する予定でございます。生徒にはできる限り 3 回とも参加して欲しいのですが、いずれか 1 回だけの参加でも可としています。第 1 回が 8 月 4 日、「日本の戦争体験をどう継承していくべきか」をテーマに、角田将士立命館大学教授の講義、そして生徒同士の話し合いを行います。第 2 回が 8 月 5 日、「現代の戦争はなぜ起こり、どうすれば防げるのか」をテーマに、鶴岡路人慶應義塾大学教授の講義と生徒同士の話し合いを行います。そして第 3 回が 8 月 31 日、「紛争地の若者と平和を考える」をテーマに、上杉勇司早稲田大学教授の講義と「日本・イスラエル・パレスチナ学生会議」の協力を得て、高校生が紛争地の若者との話し合いを行います。この「日本・イスラエル・パレスチナ学生会議」というのは、20 年以上にわたり、イスラエル、パレスチナ両地域の若者を日本に招き、対話の機会を設けている大学生の団体です。今回、イスラエル、パレスチナの方々 5 名ずつと日本人学生スタッフ 10 名が参加する予定です。今回、イスラエル人とパレスチナ人を招くことにしたのは、高校生が平和な国際社会を構想するうえで、現在実際に戦禍にある方の思いを知り、それをふまえて、必要な道筋を探ることが大切だとの考え方です。双方の異なる立場の意見を聞くなどして、多面的に考えることが大切であることから、お招きしました。今現地の情報が急変していますので、予断を許さない部分があるのですが、現段階において、イスラエル、パレスチナの若者の来日には支障がないことを確認しております。先方とも協議しながら万全を期して運営していきたいと考えています。県内から参加する生徒数は 80 名を超えない程度を

想定しています。

### ○高校生がグローバルな視野を育む「国際フェア」を開催します

県教育委員会では、「世界へはばたく高校生育成支援事業」の一環として、「国際フェア」を開催します。配付資料2のところにありますように、この「国際フェア」は、本県出身の国際社会で活躍する講師を招いての講演や、留学経験のある高校生からの体験談、生徒同士の交流をとおして、グローバルな視野を育んでいこうとする取組です。日程は7月31日午後の開催、講師として、国境なき医師団感染症専門医、永田由佳氏をお招きします。この方は本県出身で、2024年にケニアで活動された経験や留学経験等をもとに、グローバルな視野を持つことの重要性について講演していただく予定です。また、これに加えて、留学経験のある高校生による発表、それから生徒同士の交流があります。発表する生徒は、宇治山田商業高校10名、川越高校1名、計11名の予定です。

### ○ICTを効果的に活用して新しい学びを実現する授業を公開します

県教育委員会では、1人1台端末利活用方針を策定し、これまでの実践とICTとを組み合わせ、子どもたち一人ひとりに応じた新しい学びを実現することをめざしています。このたび、県内教員対象の研修会として、ICTを効果的に活用し、新しい学びを実現する授業の公開を行うこととしました。この新しい学びというのがどういうものかといいますと、配付資料の1にありますように、教員から子どもたちへの一方的な授業ではなく、子どもたちが自ら学習課題を設定し、1人1台端末やクラウドを活用して、互いの学びを参照しながら、積極的に考えたり、話し合ったりすることで理解を深めていく授業です。教師の役割はファシリテーターということになります。公開授業の内容ですが、7月8日に鈴鹿市の鈴峰中学校で3年生の社会科にて実施します。授業の後には全体研修会がありまして、授業を参観した教員が小グループで事後協議を行った後、講師による助言、講義を受けて、ICTを効果的に活用した指導方法について学ぶ機会を持ちます。それではこの新しい学び、私の説明だけではわかりにくいと思いますので、もう少しだけ担当課から説明させます。

(小中学校教育課) 新しい学びを実現する授業ということで、一体どういったものかというのを簡単に説明させていただきます。従来の授業ですと、この写真のように、教師が前に立って生徒に教える一斉授業というものが一般的なものでした。令和の日本型教育の中では、子どもたちを主語にするという学び側という視点で捉え直し、すべての子どもの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体化というものの実現がめざされています。そこで、今回の授業では、生徒たちがこのような、クラウド上で共同編集できるスプレッドシートに、自分たちの目当てだったりとか、単元の中でどういった学びを自分ではしていくか、自分の中で課題を設定したりして、また振り返りの方もここで何がわかったかをまとめたりして、お互いに誰がどのようなことを学んだかを参照できるというようなことになっています。子どもたちは、多様な意見を参考にしながら、話し合いを深め

ていく形になります。その中では個人でもっと深く追究していく。そして、ペアやグループで、共同で考えながら、お互いの議論、意見をとおし、どう思ったかというのを議論しながら理解を深めていきます。教師は、先ほどのクラウドの中のスプレッドシートや子どもたちのつぶやきなどから、生徒の学びの進捗状況を見て、ファシリテーターという役割で、子どもたちの学びがどこへ向かってるのかといったものをリードしながら見ていくといった授業になります。このような授業がご覧いただけますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 発表項目に関する質疑

#### ○ 大学等への進学を考えている高校生を対象とした企業展「みえ未来探究フェア2025」を開催します

(質) さっき言われたUターン希望率が、高校時代の地元企業を知る機会と相関関係にあるというふうに教育長はおっしゃられましたが、これは何のデータになりますか。

(答 高校教育課) 独立行政法人労働政策研究・研修機構がまとめた、「U I J ターンの促進・支援と地域の活性化」という調査結果を参照しています。

(質) このデータと三重県の子どもの傾向はほぼ同じということですか。

(答) 一般的なデータによると、やはり県内企業のことを事前に知っている学生の方が、Uターン率が高いということになりますので、これまでは私どもは県内企業への訪問とか、県内企業を知る取組というのは、大体就職を希望している生徒に対して行っていたけれども、それを進学校で、進学する生徒を対象にするというのが、新しい着目点です。

(質) 県南部の方で、高校独自で、進学校でありながらその企業に行つてというような話が1回あったというような気がします。

(答) 伊勢高校などはしています。

(質) 今回新しいというのは、県教育委員会として、全県を対象にということ。

(答) 県教育委員会が、主催でやるというのが新しいところです。学校単位で進学校が企業に対していろいろアプローチするというのはされていますけれども、そう多くはなくて、我々としては、今後もう少し増やしていかなければいけないというふうに思っています。

(質) その進学をするというところですけど、対象となるのは1年生なので、まだ進学するか就職するかというのはわからないかと思いますが、進学校対象にということなのですね。

(答) そうです。今回はやはり進学希望者が多い学校を選んでいまして、桑名西高校も、宇治山田高校も、相可高校も、そういうところですので、その学校で実施するということにしています。

(質) 他も挙がったけれどもこの3校に今年は絞つたということですか。

(答) そうですね。まず進学志望者が多いということと、これまでのキャリア教育の実績なども勘案して、県教育委員会の方で選定しています。

(質) この3校は県外への進学が多いという理解でよろしいですか。

(答) 県外県内問わず進学者が多いという趣旨です。

(質) Uターン就職をという趣旨で、労働政策研究・研修機構の調べも同じくU I J ターンの意向ということだったかと思うので、一回県外に出ることなのかなと思ったのですが。

(答) そもそも、三重県の大学進学者の7割8割は県外進学です。ですので、どこの学校でもその状況はそんなに変わりません。理由は、三重県内の大学収容率が低いからです。これも全国最下位レベルですので、どうしても三重県の進学予定者は7割8割が県外に出るという状況にあります。

(質) もっと増やしていただければ。実施は3校だけなのですね。

(答) 予算もありますので、なかなか全部でやれないのですが、できるだけ今回の状況を見ながら、増やしていくことも検討はしていきたいと思います。

(質) 施策の展開の仕方として、1年生全員というか、あらゆる子がアクセスできるという環境を、例えばインターネット上でも何でもいいですが、それを整えるというわけではなく、特定の学校の、1年生だけを対象に行うと。

(答) そうです。モデル校ですので。2年生になったら、理系に行くのか文系に行くのか、選ぶことになるんですけども、選ぶ前の1年生の時期にやろうということです。

(質) 今、モデル校でやってるけれども、結果をふまえて、取組を広げるかを検討するということになるのですか。

(答) モデル校という以上、取組の展開も頭には置いておかねばならないと思いますけれども、現在のところは未定です。

(質) 具体的には何をするかという点。

(答 高校教育課) 企業それぞれのブースに生徒が集まって話を聞いたり、体験させてもらったりします。

(質) こういった取組は初めて。

(答) 県教委が主催で、このように進学希望者を対象に、企業に対してアプローチする取組は初めてです。

(質) フェアは初めてということでもいいわけですね。

(答) はい。

## ○ 「平和を探究し、創造する高校生育成事業」を実施します

(質) 紛争地の若者を交えるというのは、第3回だけですか。

(答) そうです。

(質) このイスラエル、パレスチナの方々というのは、同世代ではなく、大学生ということ。

- (答) 高校生はいません。大学生が中心です。
- (質) 団体自体は大学生の団体で、訪問者は、日本の学生スタッフも含めて全員が大学生と。
- (答 高校教育課) 全員ではないのですけれども、イスラエル、パレスチナの大学生が訪問します。
- (質) この日本人の学生スタッフ 10 名は大学生ですか。
- (答 高校教育課) はい、大学生です。
- (質) 大学生の日本人スタッフも加わって三重県の高校生と意見交換すると。
- (答) そうです。
- (質) 各 3 回とも 80 人を超えない程度ということですか。
- (答) そうです。
- (質) そのグループでの話し合いに関しては、ファシリテーター等についているのですか。
- (答 高校教育課) 進行は、参加された生徒の中で、リーダーを決めたり、司会者を決めたりしながら、話をしてもらいます。特に外部の方がファシリテーターで入っていくわけではございません。
- (質) その場で話し合ったことを発表して、別にその自分たちの学校に持ち帰るとかそういうことは。
- (答) 今のところはそこまでは考えていないですね。
- (質) エントリー希望は各学校でそれぞれ募集してと。
- (答) そうです。
- (質) これ、戦後 80 年の取組の中で、初めて取り組むということ。
- (答) 高校生として、単に語り部の人の話を聞いたり、戦争遺跡を見たりということだけではなくて、自分が主体となって、平和な社会を構成していくためにどうしていいのかというのを、しっかり考えて欲しいというのがございまして、こういう事業を計画しました。
- (質) テーマは、講師の方に委ね、高校生からの意見が反映されてるというわけではない。
- (答 高校教育課) これはこちらである程度、テーマを絞ってお話していくことにしております。
- (質) 高校生が関心のあるテーマではなくて。
- (答) 我々として話し合わせたいテーマを設定したということになります。
- (質) グループでの話し合い発表なのですが、主体的に平和実現の手立てを考え、会場内で発表するだけで、外向けに発表していく機会とかは。
- (答) 今のところ、会場内での発表だというふうに我々は考えています。
- (質) せっかくイスラエルとパレスチナの若者と交流するので、そこから継続的に交流していくというような手立てみたいなことは。
- (答) 現在、翌年度以降のところは未定ですね。やりたいという思いはありますが。
- (質) 特に、イスラエル、パレスチナの若者を招くのは今回が初めて。

(答) はい、初めてです。この方々は、毎年日本には来てみえて、三重県には寄っていただけていないのですが、今回は三重県に寄っていただくということで、調整ができました。

(質) 海外から人を呼ぶということで、予算は大体どれぐらいかかっているのですか。

(答 高校教育課) この事業全体では、391 万円です。

(質) 今後だと思いますが、この事業の趣旨というのは、平和について探究し、主体的に平和づくりを自分でしていくという人になってもらいたいということですよ。これは単発の事業ではなくて、今後も平和について考え、交流し、学んでいけるような機会というのも併せて作っていくのは望ましいのかなと。

(答) 我々としては今後の社会を主体的に作っていく力、社会を形成していく力というのを、しっかりと高校生に培っていかねばならないと思っていますので、平和をテーマにするかどうかは、決まっていなくても、今後ともそういうこれからの社会をつくっていく力というのを、しっかりと育んでいきたいと思っています。しっかり考えていきます。

(質) 開催場所は全部津市内なのですね。

(答) そうです。津市内です。

(質) 県内各地で開催することはないんですね。

(答) はい。集まっています。

(質) 特にオンライン開催の予定は。

(答) グループで話し合っていてということもあり、向かい合ってやって欲しいというのもございます。

(質) 「日本・イスラエル・パレスチナ学生会議」というのは、そもそもイスラエル、パレスチナの学生はどういう方が参加しているんですか。例えば日本と縁があつてという感じですか。

(答) JIPSC (日本・イスラエル・パレスチナ学生会議) が募集をして、面接の上選考している方々だそうです。

(質) 多分両国の感情というのは悪い方向になっていると思いますけれども、極端なその思想を持つての方は、おそらくそこで選考されているだろうという感じですか。

(答) そう思っています。

(答 高校教育課) お互いに冷静に、平和を望んで、相手の立場を理解して、話し合いを望んでいるという部分を重視して、面接をしていると聞いております。

(質) ここで何か言い争いになることはないかと。

(答) 一緒に過ごす期間等もあつて、もう人間関係ができている人たちの訪問ですので、言い争いになるようなことはないかと思っています。

## ○ 高校生がグローバルな視野を育む「国際フェア」を開催します

(質) 国際フェアなのですが、これ毎年やっているのですか。

(答) 平成 27 年から平成 29 年にかけて、留学フェアというのをやっていたのですけれども、今回はそれ以来です。8 年ぶりになるかと。平成 29 年以降やっていませんので。前の留学フェアというのは、留学への関心を喚起しようとする目的に行っていたのですけれども、今回の国際フェアは留学だけに限定せずに、参加生徒のグローバルな視点のキャリア選択につながるような内容として、目的の幅を広げているというところに、前とは違う点がございます。

(質) 逆にそれはなぜ途絶えて、なぜ復活するのですか。

(答 高校教育課) コロナでどうしても留学できなくなったというのがあるのですが、テーマを留学のみにすると、その対象が狭くなってしまい、人数の集まりも悪くなってしまったので、留学ということに限定せずに、国際的視野を広げてもらうという形で、再度リニューアルして、企画を再構築しました。

(質) コロナの流行は令和 2 年ぐらいですよ。平成 29 年から令和 2 年の間はやらなくなってしまったと。コロナでできないというのと、単にできないと違うので。どうして復活するのか。

(答) 復活するのはやっぱり今、国際グローバルな人材を育成しようという、我々の気運が高まってきたというところもございますし、海外で学びたいという意識の子も増えてきているというふうに認識していますので。今年もベトナムに行くツアーを予定しているのですけれども、非常に申し込みの倍率が高くなったというところで、海外への一定のニーズがあるということは我々も認識しています。

(質) 地元に戻ってきてほしいという人口減少対策と取組の方向が逆に向いている気がしたので。

(答) 教育は必ず地元に戻ってきてくださいという指導はできません。子どもたちが自己実現を最大限できるように応援していくというのが我々の務めです。ただ、地域で自己実現することも可能ですよという情報を発信するのが大事ですので、最初にお話しした事業のようなことを行っています。

## ○ ICT を効果的に活用して新しい学びを実現する授業を公開します

(質) あくまでも教員たちの勉強会という捉え方ですか。

(答) 教員の研修会です。

(質) その背景にあるのが、子どもたちが 1 人 1 台端末を持っていて、その端末を活用する授業が充実するために教員がどういうふうに授業を進めるのかを県内のいろんな学校から教員が集まってきて学ぶというモデルを、この鈴鹿市の中学校でやりますということですか。

(答) 1 人 1 台端末が行き渡っていますので、それをしっかりと活用して、従来の一方通行のような授業にならないように、主体的で対話的で深い学びを実現するために、どのよ

うに活用してどのような授業を作っていったらいいのか、どういうふうに新しい学びを作っていけるのかというのを、学び合おうとするものです。これまでは好事例の発表などの形で行っていましたが、もう1歩進めて、より先進的な取組を実践している学校の授業公開をすれば、効果も高いだろうということで実施いたします。

(質) 教員方からそういうお声があって、活用できてないというような不安要素もあってこういうふうな先進的な取組になっているのですか。

(答 小中学校教育課) 県内での取組をぜひ見させていただきたいという要望がありまして、この取組を進めています。

(質) 教員の授業参観みたいな感じですか。

(答) そうですね。

(質) 鈴峰中学校さんは、いつごろからこういうご活動されているのですか。

(答 小中学校教育課) 今、中学校3年生の生徒が1年生のときから、こういった学習方法に着手しています。

(質) こういう学校はまだ県内に少ないということなのですね。

(答 小中学校教育課) そうですね。なかなか他の各市町の指導主事の方もどういった授業を進めていいか、モデルがないというふうにはおっしゃっています。

(質) 県内からどれくらい教員が参加されるのですか。

(答 小中学校教育課) まだ締め切りが過ぎていないのですけれども、本日段階で鈴鹿市外からの申し込みが20名ほどありまして、鈴鹿市内は別で取ってますので、おそらく50、60は行くのかなというふうには思っています。

(質) 鈴峰中学校の先進的な取組をふまえて、教員で研修をして、今後どのように広げていくかというビジョンみたいなものはあったりするのですか。

(答 小中学校教育課) 今回この事例を参考にさせていただいたそれぞれの実践を、我々も見学させていただきながら、ぜひ広めていきたいというふうに思っています。

(質) 鈴峰中学校ではこういうふうな取組に対して、何かしら成果というものは出ているのですか。

(答 小中学校教育課) 子どもたちが、授業で教えてもらうだけではなく、自分で家庭学習で進んで予備知識をつけることや自分たちで教科書をしっかり読むこと等、主体的な姿が増えたというようなことを言われております。

### その他の項目に関する質疑

#### ○公立学校の体育館における空調設備の設置状況について

(質) 昨日文科省が公表していたのですが、公立学校の体育館における空調設備の設置状況の三重の数値を見ると、小中学校で設置率が14.2%で、全国平均が22.7%と下回る結果になってるのですがこの数字に対する評価、受けとめをお願いします。

(答) 全国平均より低いというのは、1つは、東京都が高いのです。90何%という。東京都

を除くと、全国平均は 17%ぐらいでありますので、そんなに全国に劣ってるわけでは  
ありません。我々は、むしろプラスに評価している部分があって去年は 6.1%だったの  
が、今年 14.2%になり、倍以上に伸びています。今ちょうど各市町が取組を強化して  
いるという証だと思しますので、我々としてはこのまま伸びて行って欲しいというふ  
うに思っているところです。

(質) 何年後に何%にしたいといったような数値的な目標はありますか。

(答) できたら当然 100%にしたいというのは、教育長としては思っています。いつまでに  
何%という目標はどこにも掲げてはないと思います。体育館への空調を設置しよう  
という動きがあらわれ始めたのは、おそらく 2 年程前からだと思うのです。この猛暑の中  
ですので、できる限り早く対応したいというふうには思います。

(質) 各市町が強化しているということなのですからけれども、もう予算でつけていたりしてい  
るところもあるだろうと思っていますが、今年でどれぐらい進みそうか予測はありま  
すか。

(答) 実際に動きは、結構あります。今、避難所に指定されてるところは緊急防災・減災事  
業債という起債があたりまして、それで結構進んでいきますし、文部科学省の方も新し  
い交付金を新設しまして、財源的に非常に使えるものが増えてきてますので、各市町と  
しては進めやすいと思っています。県立の方には、緊防債は当たりますけれども、文部  
科学省の方は全くあたりませんので、なかなか県立の方は簡単ではないんですけど。

(答 学校経理・施設課) 国の防災・減災、国土強靱化のための 5 か年加速化対策に関する  
中長期目標として、小中学校体育館で令和 17 年度までに 95%設置するという国の目標  
が出ております。昨年ペースの倍増を目指すこととされたことから、前倒しになる可能性は  
あります。今後の見通しについてですけれども県として正確な数値というのは把握し  
ておりませんので、来年度以降に実施される調査の中で把握していきたいと考えてお  
ります。

## ○教員採用選考試験について

(質) 過日の教員採用選考試験の一次試験があって、今日、教育委員会定例会で報告された  
かと思いますが、その数字に関してのご所感などありますか。

(答) 受験者数は数字が残っている平成 6 年以降で最低の数値です。我々としては、優秀な  
教員を選考するためにも、一定の競争倍率を確保したいところなんですけれども、どん  
どん下がってきているので、大変憂慮しています。教員を志す若者をこれから増やして  
いくような取組をしっかりとしなければならないというふうに思っています。重要な  
のは、やはり長時間労働とか保護者の対応に苦慮しているとか、そういうブラックなイメ  
ージをなくすことが大事だと思っています。長時間労働は、相当三重県では抑制の成果  
が出ていまして、今、国の方では、時間外について 30 時間を目標にするというような  
ことが言われてますけれども、三重県では、ほぼ達成しつつありまして、一定の成果が

出ています。ただ、まだまだ現場での実感に伴っていないと言われていいますので、しっかりと I C T の利活用ですとか、専門人材の導入とかを進めていければと思っています。あと、今カスタマーハラスメントということも言われてますけれども、保護者の対応に苦慮している部分にはなかなか対応できていませんので、こちらをどう対応していくのかというのを、しっかりと考えて実現していきたいと思います。

(質) 大学 3 年生を対象とした特別選考というのを導入されて、その成果は出ているのですか。

(答) 一定数が応募してきておりまして、今年度大学 3 年生で応募してきた人は、1 人も残さず受けに来ておりますので、一定早い段階で、三重県の教職員という意識を持っていただくことには成功してると思います。

(質) ただ、倍率は落ちてるとのことですか。

(答) そうです。落ちています。要は、応募してきてる総数は、その人も含めてもどんどん減っているということです。

(質) 昨年、大学 3 年生のときに特別選考によって、1 次試験を通過して、今年、その権利で、また受けに来ている人はどれくらい数としているかわかりますか。

(答 教職員課) 昨年受かった人の 8 割強が受けています。

(質) 実数としてはどれくらいあるのですか。

(答 教職員課) 昨年度 141 名合格してまして、本年度は 123 名が申込みをしました。

以上、16 時 46 分終了